

第 1 回学識者懇談会・検討小委員会座長会議の主な意見

1. 会議の運営に関する事項

(1) 全体マネジメントとキックオフレポートの作成手順について

- ・九州のオリジナリティを踏まえるということであれば、全国計画との違いはどのように考えればよいのか。

九州の特性を反映させ、面白み・強みを掲げた計画の策定を考えている。

- ・学識者懇談会の委員が小委員会のオブザーバーになる役割は何か。

それぞれが別個で検討していると、論点の展開がお互いに分からなくなるおそれがあるため、連絡役として参加して頂きたい。

2. 議論の展開に関する事項

(1) シナリオ展開のイメージ

- ・全国計画(中間とりまとめ)は、民間が絡み新しい主体を形成しようという「新たな公」の印象が強いが、どのような方向性になるのか。

地域の担い手が少なくなる中、様々な主体が基盤整備や施設管理等を担うことになるというところで反映できると考えている。

- ・「活力ある経済社会を目指す検討小委員会」がアジア一色になっているが、他との関係もあるのではないか。

他の地域ブロックとの競争を意識して東アジアを強調おり、論点が限定されるものではないと考えている。

- ・歴史、文化、景観、九州全体の美しさが出てきてもよいのではないか。
- ・九州の課題や現状を共通認識すべきではないか。
- ・東アジアとの関係を環境問題で捉えることが必要ではないか。
- ・地域における計画を策定するのであるから、住民に問いかけてもよいのではないか。

(2) テーマ設定の考え方について

- ・テーマ設定については、まず具体的な地域を意識して検討し、それを他の地域に応用するとよいのではないか。そのうえで、最後に取りまとめるイメージで考えればよいのではないか。

- ・九州らしさは出すには、住民と自治体、または「新たな公」により自らが作るということが重要ではないか。

- ・九州全域からみた(県境をこえた)問題提起も必要ではないか。